

氏名	徳地 亮
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第5283号
学位授与の日付	平成28年 3月25日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科生体制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Clinical and demographic predictors of mild cognitive impairment for converting to Alzheimer's disease and reverting to normal cognition (MCIのコンバートあるいはリバートに影響する要因の検討)
論文審査委員	教授 伊達 勲 教授 浅沼 幹人 准教授 寺田 整司

### 学位論文内容の要旨

軽度認知機能障害 (MCI) から AD に進行した (コンバート) 群、および正常状態へ移行した (リバート) 群の割合と関連要因を検討する。対象は MCI と診断した 74 名とした。これらを 1 年後に以下の 3 群に分類した。MMSE20-26 点、CDR0.5 または 1、probable AD に該当するものをコンバート群、変化がないものを維持群、MMSE24-30、CDR 0、MCI でも認知症でもない場合をリバート群とした。関連要因として、年齢、性別、教育歴、MMSE、血管性リスクファクター、白質病変 (PVH および DWMH)、海馬傍回の萎縮を 3 群間で比較検討した。コンバート群 39.2%、MCI 維持群 52.7%、リバート群 8.1%であった。3 群間で有意差を認めたのは、教育歴、MMSE 得点、PVH および DWMH であった。VSRAD の Z スコアは有意な増加傾向を認めた (リバート群 < 維持群 < コンバート群)。コンバート群は教育歴が短く、MMSE 得点が低値、白質病変は重度、VSRAD の Z スコアが高値であった。一方、高学歴、白質病変なし、VSRAD の Z スコアが低値の場合はリバートを予測できる可能性が示唆された。

### 論文審査結果の要旨

本研究では、軽度認知機能障害からアルツハイマー病に進行したコンバート群と正常状態へ移行したリバート群の割合とその関連要因について検討した。MCI と診断した 74 名について、1 年後のコンバート群は 39.2%、MCI 維持群 52.7%、リバート群 8.1%であった。また、これら 3 群間で、関連要因の中で有意差を認めたのは、教育歴、MMSE 得点、白質病変の有無であった。従来、コンバート群、あるいはリバート群のいずれかに焦点をあてて検討した研究がほとんどであるが、本研究ではその両者を同時期に検討したところに意義がある。今回の関連要因については、コンバート群、あるいはリバート群に移行する予測因子となる可能性があり、認知症研究において価値ある業績であると認める。

よって本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。